

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878

食生活では、外食や中食の発展ととも、個性や孤食が進み、テレビを見ながらの「ながら食」は大入にまで及んでいる。最近では「アトピー」性皮膚炎やアレルギー体質の児童が増加し、保育者を悩ませている。

アトピー性アレルギー体質は、これまでの両親の食生活や生活環境が原因と考えられるが、医学的対応は別として、お互いに保育園との意見交換をしながら、日本型食生活の模索を怠らなうと思いたい。



2013.06.07

ちまこと田植の水が多かろうか？
 ななみさん、そなた、稲刈りがはじか

平成二十五年六月七日(金) 心の教育スタート



2013.06.07

「マナーがしっかりできています。」
 親子の絆を深める食と農の体験学習
 保育園における食農体験

農業体験(田圃おまつり)と食(給食)とを結びつけた実践である。保育園における給食は、子どもの成長にとって重要な活動であり、食を通じた親子への話題提起の力は大きいといわれるを得ない。

このため、保育園では給食の状況や献立の内容に、両親に通知をし、これほど、どこでも同様である。しかし、家庭での子どもの



2013.06.07



2013.06.07



2013.06.07



2013.06.07

「食と農」結び子どもの活動
 はじめてのあじの香りとお米、マナー